旅 アト

世界の課題や取り組み事例について調べてみよう。

□世界の水産物の漁獲量の変化を調べよう
□プラスチックごみのゆくえ、海洋プラスチックごみの量はどれくらい?

身近な課題や取り組み事例について調べてみよう。

□季節ごとに獲れる魚を調べてみよう
□魚の養殖の問題点を調べてみよう

SDGsゴールを自分の言葉で訳してみよう。

Life Below Water
Conserve and sustainably use the oceans, seas and marine resources for sustainable development

〈参考：外務省訳〉「海の豊かさを守ろう」　持続可能な開発のために、海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する

富山市の事例をもとに地域や世界に対して、自分でできることを考えてみよう。

□きれいな海を守るためにできることを考えよう

都市の理想を、富山から。
SDGs未来都市 TOYAMA

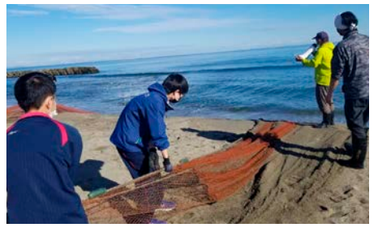
豊かな漁場　富山湾沿岸で学ぶ
地引網と漁業文化体験

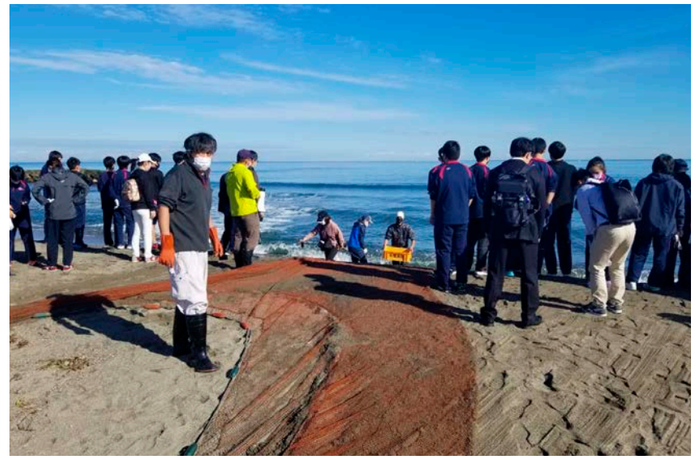
Sustainable Development Goals

理想
◎きれいな海と豊かな海洋資源
◎獲りすぎず育てる漁業の実現

課題
●漂流ごみ・海洋ごみ・マイクロプラスチックゴミ問題
●とりすぎによる海洋資源の減少
●気候変動による生態系の変化

「天然の生簀（いけす）」と呼ばれる富山湾は、恵まれた地形と海流の影響で、日本の沿岸でも魚の種類が多く、季節ごとにたくさんの魚が獲れます。
家庭でも、お刺身をはじめとする魚の消費量が多い地域です。
地元の現役漁師さんたちと一緒に、楽しみながら地引網を体験し、漁船に乗って富山湾で獲れる魚や漁の方法について学びます。
海の豊かさを守ることについて考えます。





旅 マエ　考えてみよう。 調べてみよう。 わからないことを書き出してみよう。

□いつも食べる魚はどんな種類のものか、何種類くらいあるか数えてみよう
□近海で獲れる魚にどんなものがあるのか調べてみよう
□どんな漁の方法があるのか調べてみよう
□海洋プラスチックごみはどこから来るのか考えてみよう

年　　組　　名 前

富山湾のプロフィール

「藍甕（あいがめ）」のある「天然の生け簀（い　す）」

◎水深1,000mをこえる日本有数の深い湾

日本海のポケット富山湾は、日本海側の中央に位置し、日本では若狭湾に次いで大きな湾です。また、太平洋側の駿河湾や相模湾とならび日本でもっとも深い湾のひとつです。富山湾は、大陸棚が狭く、深い海が海岸の近くまで迫っていることが大きな特徴です。

◎深い谷として刻まれた海底の複雑な地形

また「藍甕（あいがめ）」と呼ばれる16もの海底谷※があり、そこは良い漁場となっており、能登半島で囲まれ北東方向に口を開けたような形状は日本海の「天然の生簀（いけす）」と呼ばれています。

※「海底谷」とは、現在の海底が陸地だった時代の川の跡といわれています。

◎ふくよかな魚になるための栄養が豊富

藍甕と呼ばれる地形は、富山の高低差の激しい急流な河川から、大量の栄養分を含んだ水が流れこむことで作られ、魚の絶好の隠れ家となると同時に、魚に豊富なえさ場がつくられています。

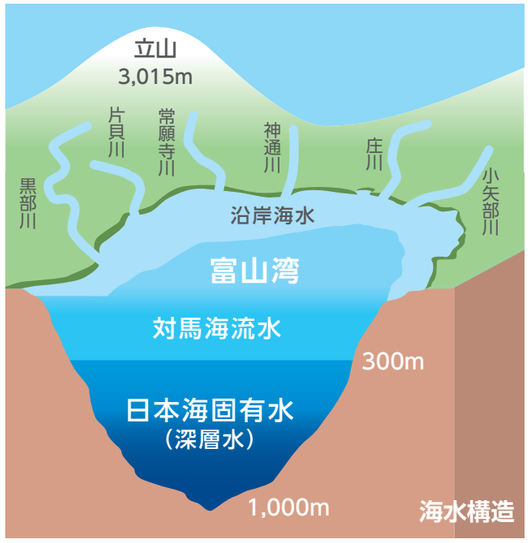
◎暖流と寒流が流れ込む魚の宝庫

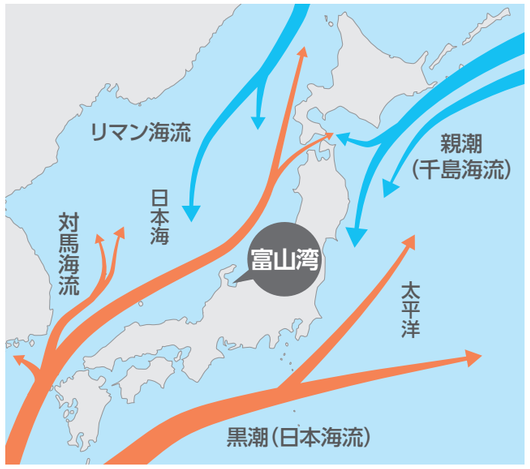
暖流と深層水日本列島のまわりを、暖流と寒流がぐるりととり囲んでいます。このため、暖流系の魚がこの流れに乗って富山湾に入ってきます。

一方、対馬海流の下には日本海固有水（深層水）とよばれる海水があります。平均水深が約800mとされている富山湾。この深層水は常に水温が2℃以下で冷たく、栄養が豊富で、きれいな状態に保たれています。そこには冷水系の魚が棲んでいます。冷たい深層水が2階建ての家のようになっていて、暖流系と冷水系の両方の魚が数多く見られ、その数は約500種とされています。

◎漁場から港までの距離が近く鮮度が落ちない

富山湾は地形により漁をする場所が海岸から近いため、すぐに魚をさばくことができ、鮮度が落ちないため、美味しい魚をよりおいしくいただける地形であるともいえます。





世界が注目する、富山湾の定置網漁

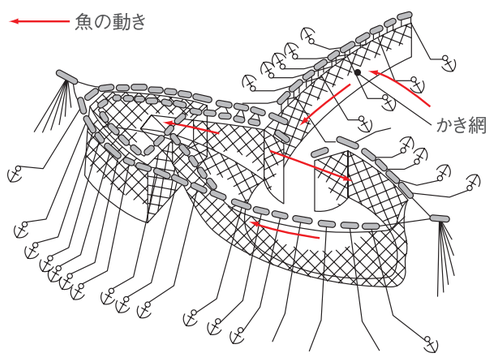
富山湾で江戸時代からつづく「越中式定置網漁」は、約400年の伝統があります。定置網漁は、沿岸に網をしかけ、じっと魚がくるのを待って、網に入ってきた魚をとる方法です。

定置網漁は、魚を傷つけないようにしたり、とり過ぎないようにしたり、網の目によってそれより小さい魚をとらないようにするなどの工夫があり、水産資源にあたえる負荷が少なく、持続可能な漁法といえます。

また、陸から近い沿岸の漁業なので、船の燃料も少なくすみ、省エネの漁法といえます。そして漁師さんたちは、毎日自宅から漁に出ることができるのです。

富山湾の定置網漁は、東南アジアなどの沿岸漁業の国にも広まっています。

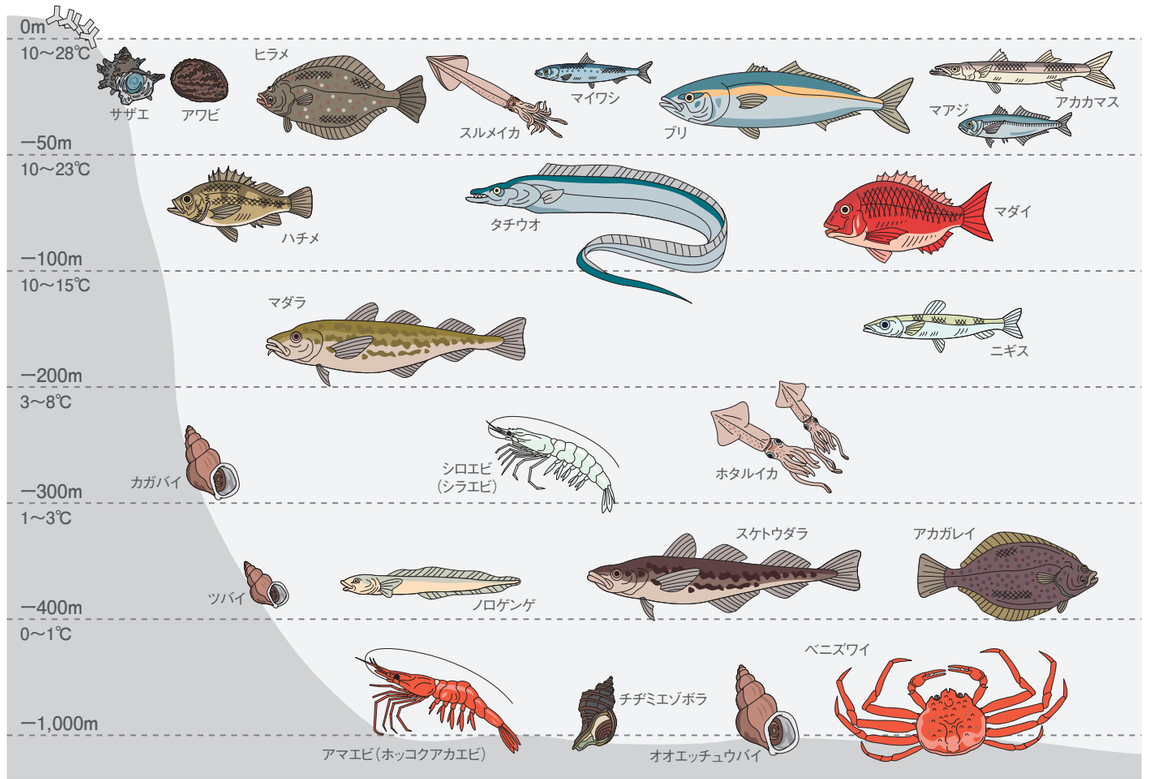
大きな魚をとる定置網



富山湾で漁獲される魚の種類の豊富さ、新鮮さ、美味しさには定評がありますが、特に、冬季に定置網で漁獲される脂の乗った寒ブリは「富山湾の王者」、春に漁が始まる神秘的な青い光を放つホタルイカは「富山湾の神秘」、春から夏にかけて旬を迎えるシロエビは「富山湾の宝石」、秋のベニズワイガニは「富山湾の朝陽」と呼ばれる季節を代表する海の幸です。
富山湾で獲れる魚のうちのごく一部ですが、代表的な魚種をご紹介します。

（富山弁）
んっまい！富山湾のとと
（美味しい富山湾の魚）

●高低差1200mに棲む魚たち



気候変動の影響

豊かな富山湾ですが、水揚げされる魚の種類が変化しています。地球温暖化による水温の変化が原因と考えられていて、今後も魚種が変わっていく可能性があります。県水産研究所によると、富山湾の海水温はこの70年で1度弱上昇しました。漁業関係者からは魚の種類や旬の時期の変化を指摘する声が相次いでいます。

自然の恵みを人為的に管理するには限界があり、その時々に取れる魚に価値を見いだすことも大切で、これまであまり食べていなかった魚種への関心が高まっています。持続可能な漁業のためには、偏見を抱かずに獲れる魚をいただく知恵も必要かもしれません。

気になったことを書いてみよう。

□網や浜辺でみつけたごみについても考えてみよう